

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

# 理科 高校

**小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる**

**10秒でいうと**

**「科学と人間生活（8新単位）」1科目で必履修を満たす道を新設。各基礎科目に科学ガイダンス**

高校の理科は、「○○基礎」と「○○」という科目の基本的な枠組みを保つ方向です。そのうえで、必履修の満たし方に新しい道を加える案です。「科学と人間生活（8新単位）」1科目だけで満たせるようにします。各基礎科目には「科学ガイダンス」を置く方向です。科目を組み合わせた柔軟な開設も考えられるとしています。暗記に偏らない授業づくりも促されます。

## 1 「科学と人間生活（8新単位）」の道

今は「科学と人間生活」と基礎科目1つ、または基礎科目3つで必履修を満たします。これに加えて「科学と人間生活（8新単位）」を新設する案です。物理・化学・生物・地学の各分野には学習事項が2つずつあり、今はそのうち1つを選んで履修します。これを、両方とも履修できるようにすることが適当とされています。 P184 P188

**授業では** 理科を4分野すべて学ばずに卒業する生徒向けに、生活と結び付いた幅広い内容で1年間を組む。そんな科目設計が考えられます。

## 2 基礎科目に「科学ガイダンス」

科学ガイダンスは高校では各基礎科目に置く方向です。実際には、最初に学ぶ基礎科目の冒頭である程度まとめて学びます。ほかの基礎科目では、内容を重点化して扱うとしています。検証の方法や研究とのつながりは、科目の内容と関連付けて学ぶとされています。 P187

**授業では** 物理基礎の最初の数時間で、仮説と検証の考え方や研究倫理を、簡単な実験を通して学ぶ。そんな導入が一例です。

## 3 科目を組み合わせた柔軟な開設

高校の教育課程を柔軟にする仕組みが検討されています。たとえば「物理基礎＋物理」を5～6単位で、4つの基礎科目の組合せを6～8単位で開くことが考えられるとしています。ただし時数を減らしても、知識・技能の定着が疎かにならないよう注意が必要です。 P190

**授業では** 4つの基礎科目の共通部分を整理し、分野をまたぐ探究の時間を生み出す年間計画を試しに作る。そんな検討が考えられます。

## 4 暗記より原理と魅力を

「統合的な理解」は、高校でもできるだけ平易でシンプルに示すとされています。用語の暗記や計算に偏らず、探究で導かれる原理・法則やその魅力を理解する授業を促すためです。教科書の内容も、必ず扱うものと必要に応じて扱うものを分かるようにすることが考えられています。 P186 P189

**授業では** 公式を覚える前に、実験データからグラフを描き、自分たちで規則性を見つける時間をとる。そんな授業が方向に沿う例です。

### ほかにも変わること（高校）

- 高校の必履修に「科学と人間生活（8新単位）」だけで履修する道を新設する案 P183 P188
- 中学校・高校に「科学ガイダンス」を新設する方向 P183 P187
- 学習内容の見直し・精選で授業時間に「余白」をつくる P189
- 小・中・高の学習内容を4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で統一 P183 P186
- 高校「科学と人間生活」の内容を見直し、両方の項目を学べるように P183 P188
- 高校で科目を組み合わせた柔軟な科目開設を可能にする方向 P190
- 目標と「見方・考え方」を小中高で統一し、社会の情報も対象に P183 P185
- 「科学的な探究」の過程を教育課程全体に位置付け、用語もそろえる P182 P183

**原田英語.com 次期学習指導要領ナビ**｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。